

勝山市総合行政審議会（第15期 第6回） 結果概要

開催日時 令和元年8月26日 19:00～
開催場所 教育会館3階 第1研修室

出席者等 出席委員11名
説明者 産業・観光部
事務局 政策推進部未来創造課

第5回の審議会において回答できなかった件について連絡する。

・中高生の市長となんでも語ろう会の意見について

中学生の市長となんでも語ろう会の主な意見。一つ目は勝山の日を作る。具体的には消防署と警察以外のすべての会社を休みとして家族で勝山の自然と触れ合う日にする。二つ目は市民向けの市内の観光地無料バスの配布し市民に市内の観光地をよく知ってもらい情報発信をしてもらう。

高校生の市長となんでも語ろう会の主な意見。一つ目は幅広い年代の人が行きやすいカフェを設置する。趣旨としては高齢者の引きこもり防止やU・Iターンを促進するための楽しめる場所とする。二つ目はキャンプ場や民泊施設を設置し、郷土料理等をしてもらう。

・ドローンの飛行規制と防災行政無線の混線について

電波法の技術基準適合証明を満たしていれば、防災行政無線、ドローンそれぞれに割り当てられた電波を使用することになるため、周波数が混線しないようになっている。しかしながら、海外で生産されたものを購入した場合、日本仕様となっていないものがあり、適合証明がなされていないものが多い。この場合は、混線の可能性もありうるとのこと。飛行禁止区域は、重量が250g以上のドローンについては、人口集中区域や150m以上の飛行について禁止されている。

【質疑応答】

第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

2 効率的、効果的な行財政の運営

122. 公平・適正な税制運営等による歳入の確保

委員

・クラウドファンディング実施件数が少ない理由として、共感できる案件が少ないとのこと。寄付行為は善意から生まれるものである。福井県陸上競技協会が主催した、Athlete Night Games in Fukuiは、クラウドファンディングを活用し多くの寄付が集まったと聞いた。これは寄付をして大会を見たいと思う方がたくさんいたからだと思う。たくさんあればいいというものではないと思うので、2件あっただけでも十分である。

説明者

・今の意見はありがたく思う。市役所が行うクラウドファンディングは、ガバメントクラウドファンディングという手法で、基本的には事業の実施について市の歳出予算を計上することから、たとえ寄付が目標金額に達しなくても、不足分は市の一般財源で対応するなどにより事業は実施可能である。集まった寄付はその事業の財源として充てる。寄付したいと思うストーリー性や必要性がなければ寄付が集まらないことから、昨年度実施した福井勝山総合病院へのクラウドファンディングなど、共感性を持てるような案件について今後も引き続き実施していく。

委員

・クラウドファンディングを活用した事業について、市民からの事業提案に対応する部署はあるか。

説明者

・クラウドファンディングの担当は商工観光・ふるさと創生課であるので、一度ご相談いただきたい。なお、事業内容によっては、他の所属が実施するか検討することも考えられる。

委員

・この件については、一般の市民がこの制度を知っているか確認したかった。

3 多様な交流活動の推進

134 . ふれあい市民との交流

委員

・施策指標となっているふれあい市民の登録者数について、昨年度、今年度ともに目標未達成となっているが、ふれあい市民という表現自体がわかりにくいと感じている。ホームページにもふれあい市民の登録といったページがなく調べようがない。少しアピール不足ではないか。

説明者

・ふれあい市民は、基本的に市内県外にいらっしゃる方であり、高校を卒業する方、成人式に参加される方、あるいは勝山にゆかりのある方である。その他にもふるさと納税をしていただいた方に声をかけて登録いただいている。今後も地道に活動し増やしていく。

131 . 恐竜を活かしたまちづくり（恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの推進）

委員

・市内の小中学生を対象としてジオパーク学習を実施しているとのことだが、ESD やユネスコスクールの活動は県内でも活発に行われており、ジオパークとの関連はどのようになっているのか。

説明者

・ESD は、持続可能な発展のための人材教育の一つとして位置付けられている。その中で、環境教育だ

けでなく郷土教育の一つとしてジオパーク学習を活用してもらっている。地域資源を見て、学んで、地元への愛着を持っていただき理解を深める。そういった学習を通じて、守っていかなければならないといった環境保全の意識向上を図っている。

137. シティプロモーションの推進

委員

・シティプロモーションの推進の中で、施策指標となっている地域ブランド調査における勝山市の魅力度ランキングに関し、520位という目標はどうして設定したのか。

説明者

・目標設定当時の魅力度ランキングが550位であったことから設定した。当時、目標は右肩上がりで設定することが基本であった。あくまでも目安である。これ以外のランキングもあり、例えば住みよさランキングでは全国54位である。

委員

・目標を550位と設定したその当時から市の担当者が代わり、次の担当者が引き継いだ時、前向きにその目標を目指そうと思えるのか。

説明者

・本来、総合計画の計画期間は10年間だが、5年で中間の見直しを実施し、その時点で既に目標を達成したもの、あるいは実状にそぐわないものを目標から外した。そこで改めて各所属において指標を見直したが、目標となる数値は少しでも前に進めるために設定するものとして議論した。今後策定を進める次期総合計画では現在の目標について検討し活かしていく。

委員

・目標設定当時と現在とで乖離が生じるのは仕方がない。毎年の評価の中で、改善できるのであればしたほうがよい。行動は達成しているが、数値目標が未達成のものが多く、リンクしていないのではないか。

逆に言えば、数値目標を立てているのであれば、それを達成するための活動をどうしてきたのか、どうするのが問われているのではないか。もっと数値目標と行動がリンクされれば、評価も変わってくる。

説明者

・次期総合計画の策定には、今のご意見を参考にしていく。

委員

・市役所は、定期的な人事異動があるが、共通の目標はしっかりと引き継ぐべき。

第3章 にぎわいと産業の振興、連携による持続可能なまちづくり

1 農業の振興

311. 集落を基盤に考える地域農業の振興

委員

- ・毎年度担い手への農地利用集積割合が下がっているのは、農事組合法人の数が減少しているためか。

説明者

- ・担い手への農地利用集積割合が下がっている理由は2つある。一つは、個人の認定農業者が前年と比べて5名ほど減っていること。ただし、農事組合法人の数は増減なし。二つ目は、認定農業者の高齢化が進み、一人当たりの平均借り受け面積が減っているため。現状は、70才以上の方が農業従事者のうちの44%を占めている。

委員

- ・農業の後継者不足もあるが、一方で30代の専業農家の方もいる。こういった若い農業者の方が何に取り組みたいのか。農業者の考え方を聞いて、支援するような仕組みがあればよいのではないか。

説明者

- ・若い方への支援は、奥越農林総合事務所、市農業公社やJAなどと定期的に相談会を実施している。そういった中で30代でも畜産に取り組み個人から会社を組織した経営者の例もある。勝山は中山間地域であり大規模な農業経営は難しい。水稻以外では、ねぎや里芋の生産に取り組みながら加工品も手掛けたといった意見もうかがっている。

委員

- ・今後の方針の中で、農業生産法人の設立を目指すところがあるが去年も同じ記載であった。目標は未達成であるが、この一年間はどのように取り組んできたのか。また、農業が活性化しないと耕作放棄地が増えることも懸念され、市内に限らず近隣の農事組合法人の参入も検討していかなければならないと思うが、そういった情報はあるか。

説明者

- ・近隣の農事組合法人の参入については、昨年営業があり、永平寺町（上志比）の農事組合法人が、北郷地域に進出したいといった情報は把握している。鹿谷町に任意法人があるが、新規就農の支援をしている。

312. 循環型農業を基軸とした勝山型農業の推進

委員

- ・田舎暮らし交流の年間受入人数が毎年減少している要因は、PR不足なのか、それとも受け入れ側の体制が整っていないのか。交流型農業は非常にいいことだと思うが、大学生へのPR、またはふれあい市民

などへのPRをしていくといいのではないか。

説明者

・減少の要因は2つの理由が考えられる。1つは、情報発信が不足していることがあげられる。以前は、専属の地域おこし協力隊の方がいて積極的な情報発信をするとともに、参加者へのコーディネートをしており、口コミ等を通じて多くの方が参加していた。この方が退任されたことが少なからず影響している。受け入れ側においても、受け入れる期間が繁忙期と重なる場合、メニューを準備することが難しい場合がある。大学生へのPRについては、例えば京都産業大学や国学院大などに登録している。こういった大学は、体験すると単位が取得できるとのことで、そういった制度をうまく活用してPRをしている。ふれあい市民の方へも広報、DMを活用してPRに努めている。

委員

・地域おこし協力隊の募集は、継続しているのか。

説明者

・継続して募集している。現在は4名の方が当市で活動している。

委員

・農業分野で活動している方はいるのか。

説明者

・継続して募集しているものの、現在農業分野の方はいない。

委員

・以前、農業分野で活動していた地域おこし協力隊の方は、勝山の人が勝山のことを知らなさすぎるといっており、そのことが非常に印象に残っている。

説明者

・その方がいらっしゃった時の地域おこし協力隊の雇用形態が、市役所の臨時職員と同様であり、職員に裁量権が少なかった。また、その方は、当時いっしょにビジネスに取り組んでもらうパートナーが見つからなかったこともあり、別の地域で活動されることとなった。

委員

・地域おこし協力隊の勤務場所はどこか。

説明者

・現状は、市役所の職員と机を並べて勤務している。

314．鳥獣害防止対策の推進

委員

- ・鳥獣害防止対策の推進にあたり、対策の中心的役割を担う猟友会の人数は増えているか。

説明者

- ・退会する方もいらっしゃるが、新しく入会される方もおり、人数的には横ばいが続いている。

委員

- ・若い方はいらっしゃるのか。

説明者

- ・今年は平成生まれの若い方が入会した。

委員

- ・鳥獣害防止対策を推進するためにも、猟友会の人数を増やしていく必要があると思う。

2 林業の振興

322．多様な活動主体による森林活用

委員

・東山いこいの森へは、市内の小学5年生がキャンプをしている所へお手伝いとして訪れたことがあるが、キャンプ場は子どもの成長にとっていい経験となる場所だと感じた。キャンプ場の利用客数減少の要因として、天候や他のキャンプ場との競争と分析されているが、小学5年生のキャンプ以外に市内外および県外の利用客層の割合はどのようになっているか。子どもが減っている中で、利用客数を増やすことは難しいと考えられるが、今後の利用客増に向けた意気込みはどのように考えているか。

説明者

・利用客数減少の要因としては、天候に恵まれず、昨年度はキャンセルが多かったこと、市外のキャンプ場が充実してきていることもあり、そちらにお客さんが流れていると考えている。東山いこいの森の利用客の割合は、市内16%、県内27%、県外57%となっている。特に登山客の利用が多いためこの割合となっている。利用客を増やすために、申し込み時に、県立恐竜博物館や化石発掘体験のパンフ、勝山温泉センター水芭蕉の割引券などをお渡ししており、また利用した後は、写真や手紙を送付するなどしてリピーターの確保に努めている。

委員

・施策指標となっている民有林での実のなる木の植樹数が未達成となっているが、企業が協力していることを広くPRすると効果があるのではないか。

説明者

・企業による環境保全と社会貢献活動の一環として参画いただいている「企業の森」は、現在4か所で活動している。PRについては、植樹した場所に看板等を設置しているが、場所が山奥になるため目につかない。なんらかの機会を活用して情報発信していければよいと考えている。

説明者

・東山いこいの森の今後の利用客増への意気込みだが、来春オープンする道の駅など今後当市を訪れる観光客の増加は確実視されている。キャンプ場へのハード面での整備は難しいが、ソフト面で魅力を向上させ利用客が増加するよう努める。

3 内水面漁業の振興

331. 水産資源の保護・活用

委員

・勝山市域における年間のアユ釣り客について、平成30年度は前年度から半分以下に減少しているが事実か。釣果があがらなかったことが要因か。

説明者

・ご指摘のとおり釣果があがらなかったことが要因と考えている。釣りシーズンが始まる7月上旬に大雨により長期間にわたり川の水が濁った。漁協関係者によると、釣果が例年の2分の1から3分の1程度に大きく落ち込んだとのことで、その影響もあり、釣り客が大きく減少した。

委員

・そうすると、漁協の収入源である遊漁券販売額が大きく減額になり、翌年の放流量に大きく影響してくると考えられる。その結果、さらに釣り客が減る恐れもある。

説明者

・推察のとおり漁協の重要な収入源である遊漁券販売額は、予算に対して6割程度と大きく落ち込んだ。放流については市も一定の割合で補助もしているが、多額の費用がかかるため課題となっている。

委員

・釣り客は、釣りだけして帰ってしまい、市にお金を落としていかないイメージがある。イメージアップの効果はあると思うが、無理して増やす必要もないのではと感じる。

4 商工業の振興

343. 起業家の育成・支援

委員

・起業者数を増やすには、若い方が帰ってきて起業するか、それとも勝山にゆかりのない方でも勝山という場所を知って起業するしかないと思うが、勝山で起業することのメリットを感じてもらえるような政策が必要ではないか。また、勝山の高校生を対象に、独立することのメリットを伝えられるようなカリキュラムを作ることができないかと思っている。

説明者

・起業に関する支援は、市に住民票のある方が対象となる。市外で起業され営業所だけを勝山に置く場合は対象外としている。なお、今年度から産業フェアの翌日に中学生を対象とした企業説明会を実施する。その場で起業に関することもPRし、気付きを与える機会としたいと考えている。

委員

・企業説明会の対象が中学1年生とのことだが、高校1年生ではないのか。

説明者

・現在14歳の挑戦という事業で、中学2年生の就業体験を実施している。その1年前に市内の企業を知っていただく機会として企画した。

委員

・空き店舗の活用については、少しずつ活用の事例が出てきているようだが、使用しない期間が長くなると活用できなくなる。空き店舗になった時点で、その情報が早めに市役所に入る仕組みはないか。空き物件に関しては、すぐに活用できるような仕組みが重要である。区長会などを通じて、早めに情報が入るよう努力してほしい。

委員

・商工会議所青年部では、キャリア教育という事業に力を入れている。キャリア教育事業と市役所で連携してできることはあるか。

説明者

・情報をいただきながら連携の可能性について相談させていただきたい。

5 観光の産業化

351 観光資源の活用による経済の活性化

委員

・観光客の中心市街地への誘客は、以前からの課題となっており、なかなか厳しい状況にある。ゆめおーれ勝山、花月楼の入館者数も減少している。ゆめおーれ勝山については、戦前からの繊維会社の女工さんの歴史を調査した研究者がまとめた本があるが、こういった成果をPRの材料にしてはどうか。花月楼の誘客については、花月楼を中心とした街歩きなどのツアーがあるが、率直に言って花月楼周辺の整

備は不十分であると感じている。このような状況の中で、中心市街地への観光客の引き込み対策はどのように考えているのか。

説明者

・中心市街地への誘客は課題として認識している。今後の対策としては、恐竜博物館前に完成したジオターミナルに観光コンシェルジュを配置し、市内の様々な情報を発信しており、この中でまちなか誘客の情報も発信してもらっている。来年4月に完成予定の道の駅でもまちなか誘客への情報を発信していく。当市の観光の現状は、恐竜博物館が中心であるため、この観光客をいかにしてまちなかに引き込むかが課題である。

委員

・恐竜博物館だけでなく、白山平泉寺も魅力ある観光地である。もっとPRして知ってもらうことが大事だ。また、勝山駅からの誘客活動にも力を入れて、そこから花月楼に誘客するなどしてはどうか。

説明者

・えちぜん鉄道の利用者は年々増加している中、通勤や通学を除く非日常の利用客も増えている。勝山駅から恐竜博物館にはバスの直行便が出ており連携できているが、中心市街地との連携については現在できておらず、課題の一つと考えている。

352 . 環境整備による周遊性・滞在性の促進

委員

・勝山温泉センター水芭蕉の利用客は今後増加が見込めるのか。

説明者

・勝山温泉センター水芭蕉は、昨年度に一部リニューアル工事を行っており、今年度に関しては利用客が若干ではあるが増えている。築30年が経過しようとしており、施設としては古く、湯量が減ってきていることから、源泉を掘りなおすことを視野に入れながら、今後の施設の維持について検討している。露天風呂に対する需要はあると感じているが、露天風呂を設置するとなると湯量が足りない。そのため施設の魅力向上のためにも湯量を増やすことを考えなければならないが、源泉を掘りなおすには多額の費用が生じることから、その財源確保も含めてしっかりと検討していかなければならない。

委員

・露天風呂は結構需要があると思うので、しっかりと検討してほしい。

353 . 観光営業の強化による誘客の促進

委員

・SNSを活用した情報発信については、最近注目を集めていることから、私どもの大学の留学生も協力できればと思う。

説明者

- ・ SNS を活用した情報発信は不十分であったので、これからもっと活用していきたい。

354 . インバウンド観光の推進

委員

・ 外国人観光客の宿泊数については伸び悩んでいるようだが、勝山市単独で取り組んでも難しいのではないと思う。県全体での取り組みが必要であり、まずはその前に越前加賀インバウンド機構と連携していけばいいと思う。

説明者

・ 外国人観光客の宿泊者数の増加は、当市単独では難しいので、越前加賀インバウンド機構の枠組みを活用して海外へのプロモーション、営業活動を行っている。越前加賀のエリア内の外国人観光客の宿泊者数は年々増加している。そこから勝山市内への宿泊へ誘導するための努力が必要であると思っている。

委員

- ・ 外国人観光客の宿泊者数はどのように把握しているのか。

説明者

・ 外国人観光客の宿泊者数を把握できるのは、スキージャム勝山のホテルハーベストと勝山ニューホテルのみであり、そのほとんどがホテルハーベストに宿泊しているのが現状である。当市に訪れる外国人観光客は、アジアからの観光客が中心であり、雪遊びを目的として観光客が訪れている。最近の外国人観光客の傾向は、ツアーによる団体旅行から個人旅行が中心となっており、この個人の観光客をどう取り込むかが課題となっている。この課題に対しては、SNS が有効なツールであることから、SNS による情報発信を強化していく必要があると考えている。

委員

・ 花月楼の前にある施設について、外国人向けの民泊施設として活用しようとしている事例があるが、この場所で民泊施設を開業する理由は、景観の良さだと思う。花月楼は、お客さんがいないと灯りを消すため、夜になると真っ暗になるが、花月楼の景観そのものが町の代表的な景色になっているため、風情を保つために、お客さんがいない場合でも灯りを灯しておくべきである。

委員

・ 勝山市の SNS を活用した情報発信は弱いと感じる。若い人は特に口コミによる情報が重要である。私たち自身も勝山のことを知っていかなければならないので、市民が勝山を知りたくなる方法を考えないといけない。実は、ふれあい市民のことを今日初めて知り、転出後においても勝山市との交流の手段があることに気付いた。転出手続きの際にふれあい市民のことを聞かなかったように思うので、その際に紹介してもらえるとよい。

委員

・観光入込客数など人数ばかりが話題となるが、富裕層向けのしっかりとしたストーリー性のある魅力あるものを訴えた方が喜ばれると思われる。ハード整備に資金を投入しても、それに見合ったお金を落としてもらえるとは限らない。SNSを活用して、特に観光消費額が高い富裕層の観光客を呼び込み、それが口コミで広がって、さらに観光客を呼び込むようなストーリーを描けるのが良い。一度検討いただければと思う。

委員

・来年度にオープンする道の駅に対する市民の期待は高い。勝山を訪れるほとんどの観光客の目的地は、恐竜博物館かスキージャムである。ここを目的に訪れた観光客をまちなかに呼び込むというが、観光客のニーズ、また、まちなかに観光客を惹きつける魅力があるのか。例えば恐竜博物館に2~3時間滞在した後、まちなかまで足を延ばす時間的な余裕はないのではないかと。美しい景観、おいしい食べ物、体験できる何かがないと立ち寄らないのではないかと。こういった要素が勝山のまちなかにあるのか。花月楼で地元の人には本当に食事するのか。例えば、歴史のある花月楼でイタリアンを味わえるといったミスマッチなどがあると、観光客を惹きつけることができるのではないかと。まちなかへの誘客を推進するのであれば、腰を据えて取り組んでいかなければならない。また、勝山は建物を持ちすぎて、活かさずいていないのではないかと。持ちすぎている建物をすべて活用しようとしすぎているために逆に分散し、集客ができていないのではないかと。勝山温泉センター水芭蕉の利用客が伸びない理由も、露天風呂がないだけでなく、若い人が訪れていないことも要因である。健康体操などのイベントを実施するなど工夫が必要ではないかと。観光客が目的地を訪れた後、ぜひ立ち寄ってみたいと思う工夫をしてほしい。

委員

・インバウンドの取り込みに対しプロモーションを実施しているとのことだが、受け入れ体制を先に整えなければならないのではないかと。せっかく訪れても体制が整ってなければがっかりして帰ってしまうのが一番良くない。市では月曜日に英会話教室を実施しているが、このような事業をうまく活用して、市民の意識を高めてはどうか。また、勝山市の観光パンフレットを見たが、すばらしいものである。多くの市民は見たことがないと思うが、市民目にする場所にあるといいと思う。市民の目に触れることで、誘客に対する意識が高められるとよい。

委員

・勝山駅前にあるふるさと茶屋縄文の里では、観光帰りなどに食事される方が結構多く、外国人もたまに訪れる。ふるさと茶屋縄文の里に観光ポスターやパンフレットを置いて活用してほしい。

第4章 美しい環境や景観の中で便利で快適に暮らせるまちづくり

3 環境や景観に配慮したまちの実現

433. 環境保全・保護、美化活動の推進

委員

・ジオパークの活動に関しては、勝山には恐竜博物館をはじめとして魅力のある施設が多いので、その他の観光施設と繋げていくことが、総合的な情報発信力の向上にも繋がるし鍵になると感じている。

4 快適で雪に強い定住環境の実現

442. 勝山市総合克雪・利雪・新雪計画の推進

委員

・農産物等の貯蔵による高付加価値化と地域ブランド化に関し、今年も雪室そばを提供するのか。

説明者

・今年も提供している。そろそろ売り切れとなってきた店もある。

第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

3 いきいきと学ぶ生涯学習の推進

533. 自然体験学習・ジオパーク学習の推進

委員

・ジオパークの取り組みがはじまりかなり時間を経過している中で、ジオパーク学習の機会はあるが、足を運べてない。市外、県外における勝山市のジオパーク構想は評価が高いと感じている。ニュース等でもよく見るが、これからではないかと思う。滞在型の観光客を誘致するため、SNSを通じて魅力を発信してはどうか。ゲストハウスなどを整備し、ゆっくり滞在できるような工夫をして、勝山の良さを感じてもらえれば効果的であると思う。

委員

・委員全体の意見を取りまとめると、勝山はいいものを多く持っているが、うまく活かせてないというのがみなさんの意見ではないかと思う。

政策の中項目あるいは小項目ごとの評価については、会議において委員よりすべて妥当であると認められており、それに関する会議中の発言内容については、本結果概要からは一括して省略する。